

# スイカの栽培法

2011/10/10

## 植えつけの準備

スイカは高温性で乾燥を好み、陽あたりの良い場所でないといけない。また、連作障害が出易いので、同一場所で毎年続けて作ることは避けた。そして、梅雨期の病虫害防除を徹底することが上作のポイントである。植えつけの20日位前に、畑全面に石灰を施して荒起しする。畦巾は2.5～3.0mとするが、当初1.5mの植えつけ畦を作り、そこに元肥を施して排水がよくなるようにカマボコ型の中高うねに仕上げる。地温を上げることと、病害予防のためにポリマルチをすれば更によい。元肥を施し、植えつけ畦を仕上げるのは、定植の7日前位である。

## 植えつけ

苗は暖い風のない日を選び、午後2時頃までに終わるようにする。苗は、根を切らないようにポットをはずし、浅植えにする。植え穴に根切虫予防としてデナボン®を小匙一杯施すとよい。植えつけは畦の端30cmの所に植え、株間は1mとする。植えつけ後水をやり、ホットキャップ(またはトンネル)をかぶせる。

## 植えつけ後の手入れ

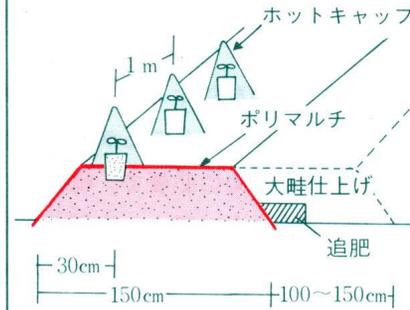
植えつけ後7～40日すると活着するので霜の心配がなければキャップをとるか、頂点に穴を開けて換気する。本葉5枚で芯止めをする。1株で子ヅル4～5本を出し、2果収穫する。子ヅルは3番花(20節前後)に玉づけするので、そこまでの孫ヅルは摘除する。植えつけ後40～45日頃に子ヅルの3番花(め花)が開花するので、朝の6～9時に人工交配を行えば、確実に着果する。病気に対しては、雨後は必ず、晴天時でも10日に一度は殺菌剤を散布するとよい。果実がボール大になれば追肥し大畦仕上げ(図参照)をする。

## 収穫

玉づけ後45日前後で収穫となる。果実を叩いて、音で判断することがあるが、確実さに欠けるので、玉づけをした時に目印をしておけば熟度が判定できることになる。

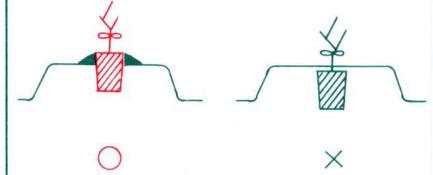
日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店  
※一部又は全部の引用を禁止いたします

## 1. 畦づくり、施肥の場所、定植の位置



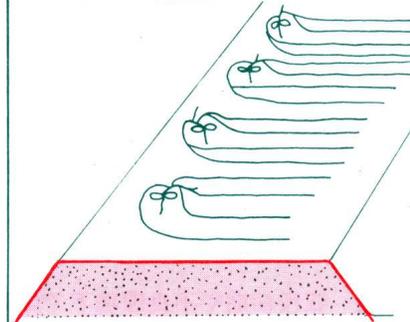
- 元肥は全面に入れ混和する。
- 植えつけは畦の端30cmの所に。
- 北側に植え南面にヅル出しが理想。

## 2. 植えつけ



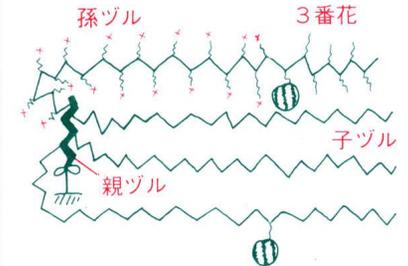
深植えは厳禁、根鉢の肩を少し出し、土で固めておく。

## 3. ツルの整枝



- ツルの先端を揃える。
- ツル間隔は20cm位に。
- ツルが重ならないように。
- 子ヅルから出る側枝(孫ヅル)は3番花まで摘除する。
- 子ヅルの下には敷ワラを敷く。

## 4. 玉づけ位置と芽かき



- 親ヅルは5節で摘芯。
- 4～5本子ヅルを出し2果どり。
- 子ヅルの3番花(18～23節)にならせる。1～2番花ではよい果実がとれない。
- 3番花までの孫ヅルは摘除する。
- 芽かきをした時は必ず消毒する。
- 玉づけ後の孫ヅルは摘除しない。